

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2012

課題番号：22402027

研究課題名（和文） 西洋における「家」の発見：日欧対比のための史実証研究

研究課題名（英文） Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe

研究代表者

高橋 基泰 (MOTAYASU TAKAHASHI)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：20261480

研究成果の概要（和文）：

本研究は、日欧各国地域において市場経済形成期に顕在化する家の存在を、より実証的に明らかにすることを目的とする。独自の歴史的存在である家業・家産・家名の継承をおこなう日本の「イエ」を基点に、家の普遍的要素である直系家族・農業経営組織体・住居を準拠枠として、南仏ピレネー地域における文字通りの「家」の発見に始まり、中欧（ドイツ北部）および北欧（フィンランド）でも日本の「イエ」に匹敵する存在（「大きい家 Grand House」）を実証した。

研究成果の概要（英文）：

This study aims to prove how a family-household system came into being and what physical form it took in the regions of Japan and Europe in the period of the transition to the Market economy. Based on, the Japanese 'Ie' which is responsible for succession of business, property and name, we set axes of lineal family, farming organism and housing for the parallel and contrast. As a result, we proved that northern Europe (Finland), central Europe (northern Germany) and southern Europe (Pyrenees districts) have the equivalent of Japanese 'Ie' ('Grand House').

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2011年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2012年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
年度			
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：「家」・西洋村落社会・対比研究・住居・市場経済形成期

1. 研究開始当初の背景

本研究は、基本的には萌芽研究「西洋における『イエ』の発見」（平成19～20年度）の発展型である。本萌芽研究では、家業・家産・家名の継承をおこなう日本の「イエ」が独自の歴史的存在であることをあらためて確認した。他方、家の普遍的要素である直系家族・農業経営組織体・住居の観点では、北欧・

中欧・南欧いずれでも日本の「イエ」に匹敵する存在（「大きい家 Grand House」）を見出した。また従来、家的要素が比較的希薄とされている北西欧諸国、とくにイギリスにおいても、家の表象というべき「家族の土地 family land」を、少なくとも近世期まで検出している。くわえて家を成り立たせる親族集団が、1つの村落や教区に限定されず、周

縁地域全体で実体を発見できることも明らかにした(高橋「歴史的実態としての共同性再発掘」2009年:業績4)。研究開始時点では、以上のような背景があった。

2. 研究の目的

本研究は、萌芽研究「西洋における『イエ』の発見」の発展プロジェクトであり、日欧各国地域において市場経済形成期に顕在化する家の存在を、より実証的に明らかにすることを目的とする。われわれは、市場経済化に対応する村落社会の変貌を「家」という基層部分に着目して比較分析しようとするものであり、近年の小農理論的把握では捉えきれない近代的市場経済社会出現の複雑なプロセス自身を比較研究しようとするものでもある。本研究計画では、1) 経済史および複数分野で混乱している日本の「イエ」研究を整理し、2) 市場経済形成期の日・欧各地域における家々を直系家族・農業経営組織体・住居を対比軸として歴史学的に抽出し直し、3) 「家」という観点から農村社会の市場経済化を再構成する。

3. 研究の方法

本研究は、日本からの問題発信として西洋社会における「家」の発見活動をおこなった科研費萌芽研究の発展プロジェクトである。萌芽研究は、日欧各国地域で市場経済形成期に顕在化する家について新たな観点かたえ直すことを主目的としたが、本プロジェクトは、その本格的実証をおこなう。具体的には、日本の「イエ」についても論争と検証作業が継続中であり、その整理が必要である。このことが萌芽研究における予備調査で判明した。したがって、本研究計画ではまずその作業をおこなう。この、「家」の発見、を円滑におこなうため、国内外での入念な研究打ち合わせを重視する。その上で、国内調査・研究および定期的な会合を主軸に、適宜必要の生まれた項目に関しての国外での会合および調査・研究を骨子として実施される。

なお、以下のような技法を採用した。

〈対比研究〉法。この方法は、相互の独自性を認めた上で相互の相違・共通性を発見していこうという問題意識に由来する。研究対象とその研究者双方にその姿勢が適用される。したがって通常の比較法のような対象同士に異なる特徴を見出す姿勢はとらない。異なる国・文化を背負う研究者同士における異文化コミュニケーションを前提にする研究技法である。

主要作業は、既存データの新たな観点からのとらえ直しである。学説史整理の後、先行研究プロジェクトにおける基点・重点対象地域で得られた「家」の準拠軸を軸に、今回の対比対象地域における既存データを読み返し分析し直すという内容である。したがって、

基本姿勢は、文献資料に基づく伝統的な歴史研究であるが、同時に以下の独自の分析新技術を用いる。

1) 日欧村落高次統合型家系譜データベース生成: 従来の研究成果でもある日英の社会経済史情報データベースを基礎にして、既存の家系譜データネットワーク(GEDCOMなど)とも連携させ、3) の居住イメージも取り込んだ新たな日欧高次統合家系譜データベースを作成する。

2) 家に関する歴史用語の共通化: 1) と連動する。主に英語を用いて、各国の「イエ」もしくはそれに匹敵する事象の歴史的文脈と研究史的系譜とを取込む用語集をもうける。歴史用語の国際共通化により、研究の円滑化を図る。国際ビデオ会議会場を兼ねた研究専用のHPを利用する。

3) 住居の歴史情報蒐集・検証のための現地実態調査: 1) を基礎データにして国際比近世・近代期日欧村落社会における住居史の資料収集・現地実態調査をおこなう。

4. 研究成果

本研究は、日欧各国地域において市場経済形成期に顕在化する家の存在を、より実証的に明らかにした。

独自の歴史的存在である家業・家産・家名の継承をおこなう日本の「イエ」を基点に、家の普遍的要素である直系家族・農業経営組織体・住居を準拠軸として、南仏ピレネー地域における文字通りの「家」の発見に始まり、中欧(ドイツ北部)および北欧(フィンランド)でも日本の「イエ」に匹敵する存在(「大きい家 Grand House」)を実証した。

その具体的データの一部は2つの国際学会 European Social Science History Conference(ヨーロッパ社会科学史学会)2012年4月グラスゴー大会および8月ポルトガル・リスボンでの国際会議 International Rural Sociology Congress(世界農村社会学会議)でそれぞれセッションを組織し報告した。さらに、2013年2月にはフランス・セルジー＝ポントワーズ大学における国際セミナーで、プロジェクト全体を総括した。これらの報告の内容は、Motoyasu Takahashi, ed., *Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe* (Matsuyama, 2013 March)として公刊している。一方で、上記「家の発見」プロジェクトの進展により新史料の「蔵開け」による発見(長野県上田市下塩尻母袋剛介氏文書)を含めデータ蓄積のみならず、国内外シンポジウムの累積・研究者間交流の緊密化・近接プロジェクトとの提携ならびに隣接学問領域研究・データ互換を通じ、より多角高次元のアプローチが可能となってい

る。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- (1) Motoyasu Takahashi, Family Name and Family Continuity: in the context of Kin Relationships in Kami-shiojiri, Nagano, Japan, Motoyasu Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), 愛媛大学経済学研究叢書 17, pp. 63-93.
- (2) Shoko Hirai, Rethinking Theories and Realities of the 'Ie' in Japan, Motoyasu Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), 愛媛大学経済学研究叢書 17, pp. 29-61.
- (3) Hiroshi Hasebe, Some comments for the comparative study of the Ie, Motoyasu Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), 愛媛大学経済学研究叢書 17, pp. 9-27.
- (4) 米山秀, ライフサイクルとライフタイム 近世イギリス奉公人の研究史から、国際比較研究、第 9 号、2013 年、3-45 頁、査読有
- (5) 高橋基泰, 日英村落史的対比研究方法論・2011、東北学院大学経済学論集、177、2011 年、259-76 頁、査読無
- (6) 長谷部弘, 「家」を比較研究するための覚え書き、東北学院大学経済学論集、177、2011 年、313-22 頁、査読無
- (7) 山内太, 近世期における田地所有者と耕作者の変遷史-信州小県郡上塩尻村の事例より-, 東北学院大学経済学論集、177、2011 年、403-18 頁、査読無
- (8) 岩間剛城, 信州上田藩上塩尻村永続講の一考察-奥印帳を手がかりとして-, 東北学院大学経済学論集、177、2011 年、313-22 頁、査読無
- (9) 國方敬司, イギリス農業革命からみたフェンとマーシュ、東北学院大学経済学論集、177、2011 年、151-64 頁、査読無
- (10) 高橋基泰, 近代イギリス遺言信託制度の「土壌」: ケンブリッジ州ウイリントン教区女性遺言者家系情報の分析、信託研究奨励金研究論文集、31、2010 年 33-48 頁、査読無

[学会発表] (計 31 件)

- (1) Motoyasu Takahashi, Introduction for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013 年 2 月 19 日, Cergy-Pontoise University, France)
- (2) Motoyasu Takahashi, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s in Tenpo famine period(1833-1837): Kin networks, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013 年 2 月 19 日, Cergy-Pontoise University, France)
- (3) Shoko Hirai, Rethinking Theories and Realities of the 'Ie' in Japan, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013 年 2 月 19 日, Cergy-Pontoise University, France)
- (4) Hiroshi Hasebe, Revisited discussions on the comparative study of the 'Ie' , International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013 年 02 月 19 日, Cergy-Pontoise University, France)
- (5) Futoshi Yamauchi, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s: Tenpo famine period(1833-1837): Property and land use, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013 年 2 月 19 日, Cergy-Pontoise University, France)
- (6) Kouki Iwama, Case studies of Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano. Focusing on the 'Ie' s: Tenpo famine period(1833-1837): Local financial market, International Seminar for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for

- The paralleling and contrasting between Japan and Europe (2013年2月19日, Cergy-Pontoise University, France)
- (7) Motoyasu Takahashi, Introduction for Finding 'Ie' in Western Society: Historical demonstrative study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe, ESSHC (European Social Science History Conference) 2012 (2012年4月12日, Glasgow University, U.K.)
- (8) Shoko Hirai, Rethinking Theories and Realities of the 'Ie' in Japan, ESSHC (European Social Science History Conference) 2012 (2012年4月12日, Glasgow University, U.K.)
- (9) Motoyasu Takahashi, Kin relationships and families in kami-shiojiri village, Ueda, Nagano, Japan in the Tenpo Bad Harvest period (1830's) : focusing on the note of the rice sold to those who had difficulty feeding themselves in Tenpo 7th year (1836) and the census, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (10) Hiroshi Hasebe, Instruction: conditions of famine durability in the Japanese rural village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (11) Yoshiyuki Murayama, Climate and geographical conditions for tenpo lean harvest in Kami-Shiojiri village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (12) Futoshi Yamauchi, Agricultural structure and bad harvest at the end of the early modern age in Japanese village, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (13) Kouki Iwama, The foundation of the Eizoku-ko against bad harvest: a case study of the Kami-Shiojiri village, Ueda, Shinano, Japan, XIIIth World Rural Sociology Congress (2012年08月03日, Lisbon University, Portugal)
- (14) Martin Morris, The comparative history of rural vernacular houses, International Joint Seminar at Queens' College, Cambridge University (2012年2月20日, Cambridge, U. K.)
- (15) 高橋基泰, 家系譜および宗門改帳にみる同族と姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館(熊本県阿蘇郡小国町)
- (16) 長谷部弘, 家連合と同族・姻戚関係、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館(熊本県阿蘇郡小国町)
- (17) 山内太, 蚕種商人の家継承と同族・姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館(熊本県阿蘇郡小国町)
- (18) 岩間剛城, 金融稿と同族・姻戚、日本村落研究学会第59回研究大会、2011年10月29日、木魂館(熊本県阿蘇郡小国町)
- (19) 高橋基泰, 人口と同族の構造と動態: 農村社会の市場経済化と凶作対応、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学(仙台市)
- (20) 村山良之, 信州上田小国地方における天保の凶作、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学(仙台市)
- (21) 長谷部弘, 上塩尻村の市場経済化と凶作対応、社会経済史学会東北部会、2010年12月14日、東北大学(仙台市)
- (22) Motoyasu Takahashi, Kin relationships and families in Kami-shiojiri village, Ueda, Nagano, Japan in the Tenpo bad harvest period (1830's) : for the contrast and parallel study with Willingham, Cambs., UK., The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (23) Futoshi Yamauchi, The effect of bad harvests in Kami-shiojiri on landholding and land use, The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (24) Hiroshi Hasebe, Famine, crises and mutual-aid in the Kami-Shiojiri Village; the analysis of survival movement against the Famine, The 1st International Rural History Conference (2010年9月15日, Sussex University, U. K.)
- (25) Motoyasu Takahashi, Communal Organisations in the English Fen-edge Area: for a Study of Historical Parallel and Contrast with the Warichi (Land Distribution) System in Echigo, Japan, オックスフォード-名古屋大学国際環境史セミナー、2010年9月8日、名古屋大学(名古屋市)
- (26) Hiroshi Hasebe, Flood Control (Chisui) and Local Community in

Tokugawa Japan : Case Study of the Shinano River、オックスフォード-名古屋大学国際環境史セミナー、2010年9月8日、名古屋大学(名古屋市)

- (27) Satoshi Murayama, Water Management and the Renaturalization of Rivers: A Local History Approaches to International Comparison between Germany and Japan, オックスフォード-名古屋大学国際環境史セミナー、2010年9月8日、名古屋大学(名古屋市)
- (28) 高橋基泰、飢饉と人口変動：上田藩上塩尻村における天保の凶作・飢饉の事例研究、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学(兵庫県西宮)
- (29) 村山良之、信州上田小県地方における天保の凶作、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学(兵庫県西宮)
- (30) 山内太、飢饉と農民層分解、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学(兵庫県西宮)
- (31) 長谷部弘、天保の凶作・飢饉への村落対応、第79回社会経済史学会全国大会、2010年6月20日、関西学院大学(兵庫県西宮)

[図書] (計2件)

- (1) Motoyasu Takahashi, ed., Finding 'Ie' in Western Society: Historical empirical study for the paralleling and contrasting between Japan and Europe (Matsuyama, 2013), pp.1-249.
- (2) 平井晶子、笠谷和比古編『一八世紀日本の文化状況と国際環境』(「東北日本における家の歴史人口学的分析——一八・一九世紀の人口変動に着目して」) 2011年、18頁(215-232)

[その他]

ホームページ等

<http://www.cpm.ehime-u.ac.jp/MotoHomePage/Motohome.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 基泰 (MOTOYASU TAKAHASHI)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：20261480

(2) 研究分担者

平井 晶子 (SHOKO HIRAI)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：30464259

(3) 連携研究者

高木正朗 (MASAO TAKAGI)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：70118371

國方敬司 (KEISHI KUNIKATA)

山形大学・人文学部・教授

研究者番号：70143724

米山 秀 (MASARU YONEYAMA)

首都大学東京・大学院社会科学研究所・教授

研究者番号：80158542

村山 聡 (SATOSHI MURAYAMA)

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：60210069

モリス マーティン (MARTIN MORRIS)

千葉大学・大学院工学系研究院・教授

研究者番号：20282444

長谷部 弘 (HIROSHI HASEBE)

東北大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号：50164835

村山 良之 (YOSHIYUKI MURAYAMA)

山形大学・大学院教育実践研究科・教授

研究者番号：10210072

山内 太 (FUTOSHI YAMAUCHI)

京都産業大学・経済学部・教授

研究者番号：70271856

平井 進 (SUSUMU HIRAI)

小樽商科大学・商学部・教授

研究者番号：30301964

花田洋一郎 (YOUICHIRO HANADA)

西南学院大学・国際経済学部・教授

研究者番号：40284476

佐藤睦朗 (MUTSUO SATO)

研究者番号：90409855

神奈川大学・経済学部・准教授

岩間 剛城 (KOUKI IWAMA)

近畿大学・経済学部・准教授

研究者番号：30534854